

第 39 回日本催眠療法学会学術大会

0-2

横浜、2024. 11. 24

不妊治療専門施設における催眠療法

田中久美子, 森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

当院の施設名の HORAC は (Holistic Reproductive Anti-aging Centre) の頭文字をつなげたものであり、西洋医学中心の最先端の生殖医療のみならず、東洋医学をベースにした統合医療ゾーンが院内にある。受胎鍼や低出力レーザー等の施術系、ミトコンウォークやヨガ、ストレッチといった運動系、栄養や心理といったカウンセリング系等の、患者にあった多様で複数のプログラムも同時に提供をしている。

Milton. Erickson は心因性の不妊症への臨床実験的アプローチ (20 症例) の結果から、身体の生理反応の再教育や解決を見いだせるはずだという期待を持つ、その姿勢こそが探求し、発見し、癒すことになるという。

当院でも 2015 年より催眠療法からヒントを得て J. H. Schultz によって体系化された自律訓練法やイメージ療法等を実施している。2017 年 5 月には横山顕子先生と共同研究という形で患者への臨床催眠集団療法を実施し、2024 年 7 月にも習慣性流産の患者に対して臨床催眠療法の提供をスタートさせている。

患者のこれまでの治療歴、流産・死産などの喪失体験、親の介護の問題、夫婦それぞれのライフスタイル及び価値観の一致や不妊治療に対する温度差、採卵決定前後でのこころの揺れやプレッシャー、採卵時のストレス、ホルモン注射、そして胚移植、その後の判定結果を受けての心的状態の理解、カップルの価値観や不妊治療に対する温度差、採卵決定前後でのこころの揺れやプレッシャー、妊娠することへの名づけようのない恐怖感や不安、採卵時のストレス、ホルモン注射、胚移植、その後の判定結果を受けての心的状態の理解にはその時々に応じた配慮が不可欠である。患者自身の心的体力という、こころのエネルギーも治療を乗り切っていくために非常に重要であるため、その時々に応じた配慮がスタッフ側にも求められる。

そのような時にどのようなことが患者に役立つのか不妊治療専門施設における臨床催眠療法の活用について報告する。